

令和 6 年

火災・救急活動の概要

【確定版】

高槻市消防本部

1 火災

(1) 火災件数と出火率

◎火災は9件の増加

令和6年中に高槻市内で発生した火災は67件で、前年の58件と比べ9件の増加となった。

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は1.9で、全国平均（令和5年中）3.1と比べ1.2ポイント低い。

(2) 火災種別

◎建物火災が59.7%

令和6年中の火災件数のうち建物火災が40件で、全火災の59.7%を占めている。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

建物火災 40件（59.7%）

車両火災 7件（10.4%）

その他の火災 20件（29.9%）

(3) 焼損面積

◎焼損床面積及び焼損表面積が減少

建物火災は40件で前年の37件から3件増加し、焼損床面積は144平方メートルで、前年の853平方メートルに比べ減少となった。

焼損表面積は15平方メートルで、前年の185平方メートルに比べ減少している。

(4) 損害額

◎損害額は減少

令和6年中の損害額は20,888千円で、前年の58,996千円から比較すると38,108千円の減少となった。

1件当たりの損害額は312千円で、前年の1,017千円より705千円の減少である。

※ 損害額の整数第3位を四捨五入

(5) 火災による死傷者

◎死者は1人

令和6年中の火災による死者は1人（前年4人）で、負傷者は6人（前年8人）であった。

また、負傷者6人のうち、重症者は1人（前年1人）、中等症者が2人（前年3人）、軽症者が3人（前年4人）、30日死者が0人（前年0人）である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

◎令和6年は「放火（疑いを含む）」が1位に

ア 令和6年中の全火災（67件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはならない。

放火（疑い2件を含む） 14件（20.9%）

こんろ 7件（10.4%）

配線器具 7件（10.4%）

たばこ 5件（7.5%）

電灯・電話等の配線 4件（6.0%）

電気装置 3件（4.5%）

たき火 3件（4.5%）

ストーブ 2件（3.0%）

電気機器 1件（1.5%）

内燃機関 1件（1.5%）

マッチ・ライター	1 件 (1.5%)
溶接機・切断機	1 件 (1.5%)
取灰	1 件 (1.5%)
火入れ	1 件 (1.5%)
その他	10 件 (14.9%)
不明	6 件 (9.0%)

イ 建物火災（40 件）を原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の％は小数第 2 位を四捨五入

こんろ	7 件 (17.5%)
配線器具	6 件 (15.0%)
放火（疑い 0 件）	6 件 (15.0%)
電灯・電話等の配線	4 件 (10.0%)
電気装置	3 件 (7.5%)
ストーブ	2 件 (5.0%)
たばこ	1 件 (2.5%)
電気機器	1 件 (2.5%)
溶接機・切断機	1 件 (2.5%)
その他	6 件 (15.0%)
不明	3 件 (7.5%)

（7）まとめ

令和 6 年中の火災は、67 件で前年の 58 件に比べ 9 件増加している。従前に引き続き地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

火災種別でみると、建物火災が 40 件で前年より 3 件増加しているが、焼損床面積及び焼損表面積並びに損害額は前年より減少している。

火災による死者は 1 人で、前年より 3 人減少している。また、負傷者は 6 人で、前年より 2 人減少している。

出火原因は、「放火（疑いを含む）」が 14 件で 1 位、「こんろ」及び「配線器具」が 7 件で 2 位と続いている。「放火（疑いを含む）」は、前年の 6 件より 8 件増加しており、消防、警察、自治会、自主防災組織、事業所等が取り組んでいる「放火されにくい地域環境作り」を継続し、放火撲滅に向けた積極的な対策をより一層推進していかなければならない。

令和6年火災概要(対前年比)

区 分			単位	令和6年	令和5年	増減（C）	増減率（％）	
				（A）	（B）	（A）－（B）	（C）／（B）×100	
出火件数			件	67	58	9	15.5%	
建物火災				40	37	3	8.1%	
林野火災				0	0	0	—	
車両火災				7	9	△ 2	△22.2%	
その他の火災				20	12	8	66.7%	
焼損棟数			棟	40	47	△ 7	△14.9%	
全 焼				1	3	△ 2	△66.7%	
半 焼				1	2	△ 1	△50.0%	
部分焼				7	10	△ 3	△30.0%	
ぼ や				31	32	△ 1	△3.1%	
焼 損 面 積	建	床面積	m ²	144	853	△ 709	△83.1%	
	物	表面積	m ²	15	185	△ 170	△91.9%	
	林 野		a	0	0	0	—	
死 者			人	1	4	△ 3	△75.0%	
負傷者(30日死者含む)			人	6	8	△ 2	△25.0%	
り災世帯			世帯	26	50	△ 24	△48.0%	
全 損				1	17	△ 16	△94.1%	
半 損				2	7	△ 5	△71.4%	
小 損				23	26	△ 3	△11.5%	
り災人員			人	59	81	△ 22	△27.2%	
損害額			千円	20,888	58,996	△ 38,108	△64.6%	
建物(収容物含む)				18,105	51,042	△ 32,937	△64.5%	
林野				0	0	0	—	
車両				2,695	1,559	1,136	72.9%	
その他(爆発含む)				88	6,395	△ 6,307	△98.6%	
出火率			件	1.9	1.7	0.2	11.8%	
年			令和6年			令和5年		
主な出火原因			1	放火（疑いを含む）	14件	1	たばこ	8件
			2	こんろ	7件	2	放火（疑いを含む）	6件
			2	配線器具	7件	2	こんろ	6件
			4	たばこ	5件	4	電気機器	4件
			5	電灯・電話等の配線	4件	5	たき火	3件

過去5年間の火災状況

区分別			年別	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
火災件数				70	55	70	58	67
内 訳			建 物	48	25	42	37	40
			林 野	0	1	0	0	0
			車 両	10	8	9	9	7
			その他	12	21	19	12	20
			爆発 (上記に含む)	1	0	1	0	0
焼損棟数（棟）				71	33	62	47	40
内 訳	全 焼			6	2	8	3	1
	半 焼			5	1	3	2	1
	部分焼			16	5	17	10	7
	ぼ や			44	25	34	32	31
焼損面積	建物	床面積（㎡）	807	452	1,143	853	144	
		表面積（㎡）	127	59	246	185	15	
	林 野（a）		0	7	0	0	0	
り災世帯（世帯）				75	35	62	50	26
内 訳	全 損			14	3	10	17	1
	半 損			7	0	2	7	2
	小 損			54	32	50	26	23
り災人員（人）				148	77	137	81	59
損 害 額（千円）				125,651	41,673	141,256	58,996	20,888
内 訳	建 物(収容物含む)			120,988	39,860	133,096	51,042	18,105
	林 野			0	0	0	0	0
	車 両			4,065	459	7,749	1,559	2,695
	その他（爆発含む）			598	1,354	411	6,395	88
死 者（人）				2	2	1	4	1
負 傷 者（人）				10	5	14	8	6
	30日死者（人）			0	0	0	0	0
覚 知 別 件 数				70	55	70	58	67
内 訳	火災報知専用電話 （119）			37	25	41	31	29
	加 入 電 話			3	0	1	4	2
	警 察 電 話			6	7	1	1	3
	事 後 聞 知			21	20	26	19	33
	そ の 他			3	3	1	3	0

2 救 急

(1) 救急出動件数

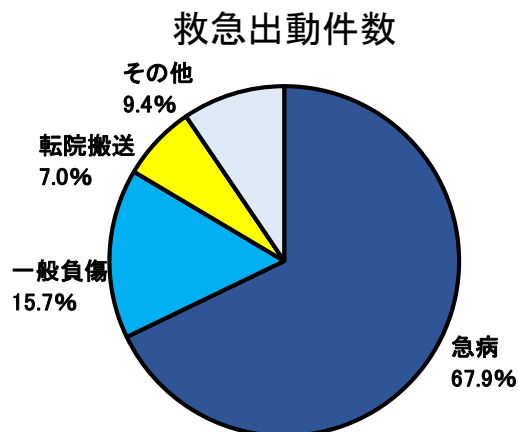
◎出動件数は増加

令和6年中の救急出動件数は25,450件で前年24,743件に比べ707件(2.9%)増加した。

また、1日平均にすると約70件、約21分に1回の割合で出動したことになる。

出動件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で17,268件(67.9%)、第2位が一般負傷3,991件(15.7%)、第3位が転院搬送1,776件(7.0%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出動件数は363件であった。



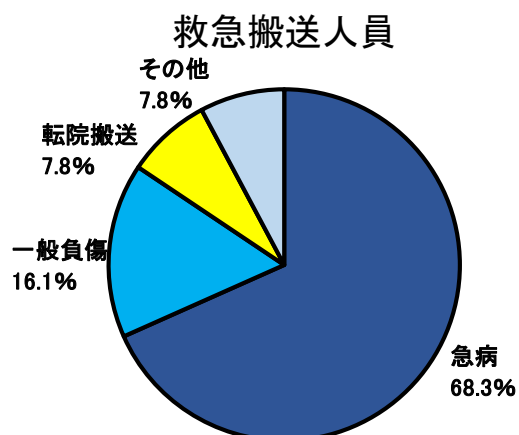
(2) 救急搬送人員

◎搬送人員は増加

令和6年中の搬送人員は22,627人で、前年22,199人に比べ428人(1.9%)増加した。

また、1日平均約62人、市民の約15人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

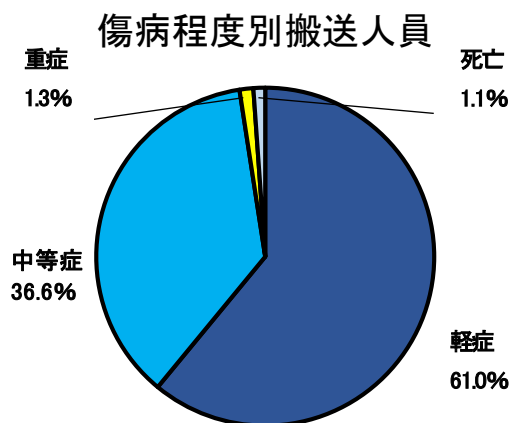
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で15,462人(68.3%)、第2位が一般負傷で3,633人(16.1%)、第3位が転院搬送で1,769人(7.8%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎軽症傷病者は13,797人

令和6年中の搬送人員22,627人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が13,797人(61.0%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が死亡、重症又は軽症以外のもの)が8,278人(36.6%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が298人(1.3%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が254人(1.1%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

令和6年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出動件数及び搬送人員は増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症傷病者が多く、全搬送人員の61.0%を占めており、全国平均48.4%(令和5年中の速報値)に比べ高い割合を示している。

今後の救急需要に対し全国平均に比べ高い割合を示している軽症傷病者への対応として、救急車の適正利用について市民等への働きかけを継続して行う必要がある。

救急概要

区分 事故種別		出動件数(件)			搬送人員(人)		
		6 年	5 年	増 減	6 年	5 年	増 減
合 計		25,450	24,743	707	22,627	22,199	428
火 災		24	39	△ 15	3	8	△ 5
自然災害		0	0	0	0	0	0
水 難		7	6	1	0	0	0
交 通		1,344	1,336	8	1,252	1,235	17
労働災害		168	157	11	155	153	2
運動競技		107	113	△ 6	105	114	△ 9
一般負傷		3,991	3,876	115	3,633	3,570	63
加 害		81	69	12	67	57	10
自損行為		251	247	4	181	186	△ 5
急 病		17,268	16,811	457	15,462	15,189	273
そ の 他	転院搬送	1,776	1,695	81	1,769	1,687	82
	医師搬送	219	196	23	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0	0	0	0
	その他	214	198	16	0	0	0

3 救 助

	火災	交通事故	水難事故	自然災害事故	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	12	26	10	0	1	161	0	153	363
活動件数(件)	12	16	8	0	0	147	0	66	249
救助人員(人)	4	18	7	0	0	147	0	16	192

4 その他

(1) 警戒・支援出動等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出動	95件	火災危険のあるもの(危険物・ガス漏洩等)
誤虚報出動	47件	火災出動したが結果誤虚報であったもの
支援出動	1,150件	救急等の支援活動
その他出動	541件	上記以外(怪煙調査等)
合計	1,833件	

(2) 応援出動

応援先	件数	応援出動の内容
島本町	46件	火災出動1件・救急出動43件・その他出動2件(高速道路含む)
茨木市	10件	火災出動1件・救急出動9件(高速道路含む)
摂津市	8件	火災出動4件・救急出動4件
箕面市	1件	火災出動1件(高速道路含む)
枚方市	1件	その他出動1件
大山崎町	7件	火災出動1件・救急出動5件・その他出動1件(高速道路含む)
八幡市	1件	その他出動1件
輪島市	2件	その他出動1件
合計	76件	

(3) その他の災害出動

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出動	2件	気象に係る災害対応

※ 全ての表中の△印は減少もしくは負数を表す